

ネイチャーウォーク夏合宿 2008

今年の残暑は手ごたえがなかった。

しかし、かといって油断は禁物。

というわけで（なにがだ）今年も涼しさを求め、有志一同は北へ行く。

今回の合宿は、なんと電車。

公共交通機関をなるべく利用してエコなツアーを、と流行りに釣られてみる。

乗ったのは特急草津、行き先はずばり、群馬県六合村の野反湖。



六合村と書いて「くにむら」と読む。

昔々、6つの集落が合わさってできた村だから、そう読むらしい。

当て字にも程がある度 MAX の読ませ方だが、その読みの歴史は日本書紀まで遡る。



何回目だろうか、このキャンプ場も。

そして今度もお約束のように、到着するなり豪雨が到来する。

しかしここでブルーになるようではネイチャースタッフ半人前。降ったら降ったで楽しみはたくさんある。

借りたバンガローにて昼間から、屋根打つ雨の音を聞きながら、酒。

ヨーロッパにおわす酒の神バッカスさまは、日本の雨の神様カッパさまとメル友だ。

酒が進むネイチャースタッフに気をよくしたのか、カッパさまにちったあ止めたれと顔文字いっぱいのデコメール。

こりゃあ仕方ねえと、カッパさまはひしゃくを止めた。

いつの間にかやんだ雨に、ちょいと出かけようかとアマガッパを来てみんなで出発。

ちょっと危険な雨上がりの沢に入ってみよう。



おっと発見、サンショウウオ。
あんまり小さいのでナニサンショウウオだかよくわからないが、とにかく両生類がいる沢だ。
発見者はもちろん、我らがリーダーIさん。



綺麗な花があるじゃないか。
何の花かと尋ねてみれば、かの有名なトリカブト。



名前の由来は、花の格好が烏帽子（えぼし）に似ていることかららしい。こいつは納得。

下も高い所のお花、リンドウ。
こっちは毒も何もないから安心して見られるってもんだ。
ノゾリといえばキスゲが有名だが、さすがに9月じゃあ見ごろは過ぎていた。

雨は昼過ぎに止みはしたが、天気が悪いのはそのまま。虫もあまり飛ばず、鳥もウグイスとメボソムシクイの鳴き声があちこちからする程度。
時期も悪いが、ちょっと寂しい。



9月にもなると夜は早い。
火と美味しい食事と酒を囲みつつ、今日という日を祝って何度も乾杯。
べろんべろんに酔っ払った頃に後発隊がやってきて、みんなで花火をしたり。



花火が終わって夜空を見上げれば、いつの間にもやら満天の星空。

何度目の正直かは忘れたが、確かに今日は晴れだった。



次の日も天気予報では雨の筈だが、バンガローの外はからりと青空。

目を覚ます。遅くまで寝ているのはもったいない。...というか、昨晚の余った食材をいかにしてチェックアウトまでに全て消化するか。

そればかりに知恵を絞った日曜日の朝。



午前・お昼は湯釜・弓池まで足を伸ばす。
硫黄の臭いたちこめる観光地、臭いだけを切り取ればなぜここが観光地なのかよくわからない。
みられるのも荒涼とした生きものの気配のしない湖と火山地だけ。だが人は大量に訪れる。
だってそこが観光地なんだもん。

そんな中でもこんなチョウ。
キリンソウをひっくり返してこんにちは。
クジャクチョウの羽根に描かれた瞳はどこかユーモラスだったけど、当のクジャクチョウは愛想なし、こちらのことなど知るものか、私ゃ花さえあればいいんだといわんばかりだった。



そして臭くない方の池、弓池でお昼ご飯。

カルガモが何羽も観光客におねだり。

もちろん野生の生きものは野生の中で餌を確保すべし。お前らにはコメ一粒もやらん。

それでもカルガモは愛嬌を振りまくのを止めやしない。だってここは観光地。



お決まりの草津温泉、そして帰りの電車であつと叫んだ大きな後悔。草津に入って河原湯に入らず帰るとは何という片手落ち。

草津とエコとかいう流行りモノに現を抜かすとは、何たるネイチャー道不覚悟。

しかしこれ以上我を責めないでおくれ、電車の中では何も語らず只々爆睡していたのだから。

では、また来年...Zzz (0)